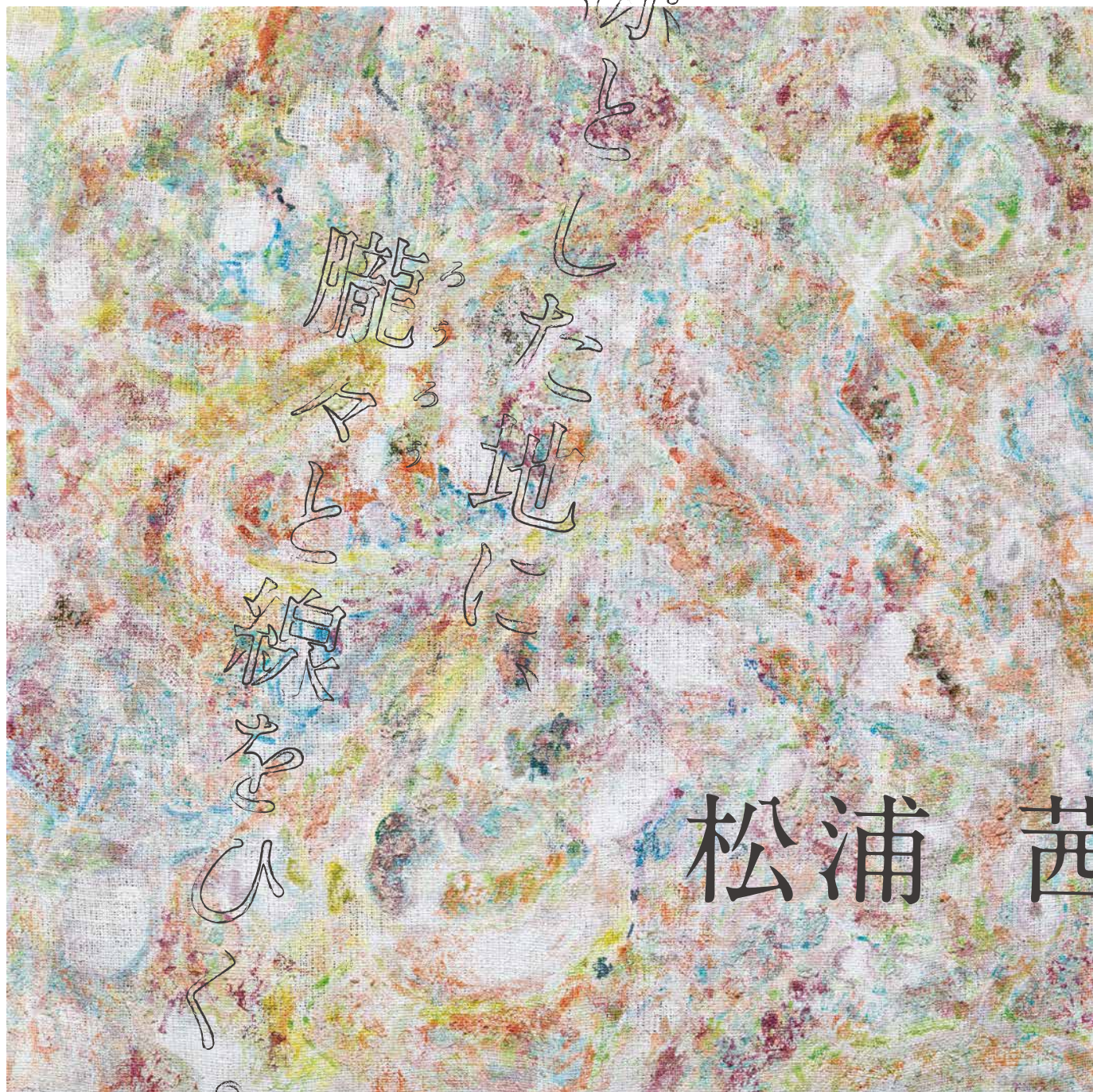




《faint light #1》(2018)
ドンゴロス、ジェルメディウム、ジェッソ、
油彩、サンドマチエール(杜鰐殻)
91cm×91cm 撮影: Tomas Svab



Shigeo Fukuda

松浦 茜

2019 3 / 9 [土] — 3 / 24 [日]

12:00-17:00 *土日祝は19:00まで 月・木曜日休廊 *ただし3/21(木・祝)は開廊

◎初日3月9日(土)17時より、ささやかなオープニングパーティーを開催します。



GALLERY
SUUJIN

ギャラリー 崇仁 元崇仁小学校内
| 京都市下京区川端町16 | 京都駅より徒歩9分 |

私は印刷物の観察から着想を得た作品を制作しています。具体的には、ある一枚の写真の一部分を切り取り、描いています。一枚の写真の部分を拡大し印刷した時に、〈何が写されているのか認識し難いイメージ〉と出会いました。それは、ただ形や色として魅力的でありながら、思い出せない記憶のように、もやもやとしたものでした。

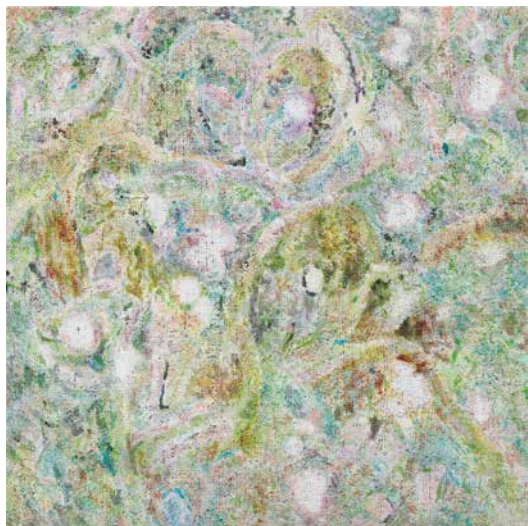
はじめに「見ているものがぼやけてしまう」ということに興味を持ち、描いているイメージに意味がないとしても、その存在に気付いた事を絵として残し、居場所を与えたいと考えました。また、粗い画像によって私の中で見ることそのものがゆらいでいきました。印刷によって生まれるざらざらとしたインクの染み、ぼんやりと浮かぶ写されたものの輪郭線、そのどちらも私の目に飛び込んできて、どちらが前景に出てくるのか、行ったり来たりで要領を得ない観察の繰り返しでした。

対象であるモチーフは、写されているものであると同時に、粗く刷られた一枚の印刷物でもあったからです。そういった観察のプロセスからも、どこかが際立って目立つことのない、「ぼやけた像」が画面上に浮かび上がってきました。描き進めていくと、次第に対象を写していくというよりも、私がこのモチーフと向きあった時に頭に刻まれたざらざらした感覚を、手の感覚に変換してアウトプットしたいと考えるようになり、どうすればその質感になるのか、色の配色や素材を実験してきました。

今回使用している素材はドンゴロス（麻布）や、麻紐を使用した手作りの支持体です。それらは、簡単には素材に絵の具が伝わらない事が、もどかしくもありますが、私が見ているものとリンクするように思います。例えば、最初にイメージの輪郭線を取るとき、絵を水平にして薄い絵の具で線を引きます。ドンゴロスの穴の空いている部分をよけながら輪郭線が滲んでいく現象は、「イメージを描きながらもイメージが壊れていく」という感触があり、私の視覚とも呼応するように感じました。

今回の展示では、対象である“粗い画像”を見た時に、「視覚的に認識し難い」と私が感じた体験を作品に変えて、この空間に表します。

荒涼とした地に、 朧々と線をひく。



《faint light #2》(2018) ドンゴロス、ジェルメディウム、ジェッソ、油彩、サンドマチエール（牡蠣殻）91cm×91cm 撮影：Tomas Svab



《faint light #3》(2018) ドンゴロス、ジェルメディウム、ジェッソ、油彩、サンドマチエール（牡蠣殻）91cm×91cm 撮影：Tomas Svab

作家プロフィール 松浦 茜 [MATSUURA Akane]

1989年 京都府生まれ

2016年 京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻（油画）修了

個展 2015年「Close to silence 賑やかなしじま」/ギャラリーモーニング（京都）

グループ展 2018年「OPEN STUDIO×4」/ウズマキスタジオ（京都）

ARTIST'S FAIR KYOTO:BLOWBALL:ART MEETS WINTER/タイム堂（京都）

2017年「その後の、未来の途中」/京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

「OPEN STUDIO×5」/ウズマキスタジオ（京都）

「未来の途中の星座-美術・工芸・デザインの新鋭9人展-」/京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

その他 2018年 ホテルグランヴィア×京都市立芸術大学 アートワークスプロジェクト客室展示/ホテルグランヴィア大阪

2015年 京都銀行美術支援制度2015年度購入作品選抜



京都市立芸術大学移転整備ブレ事業

《教室のフィロソフィー》第8弾 展覧会情報

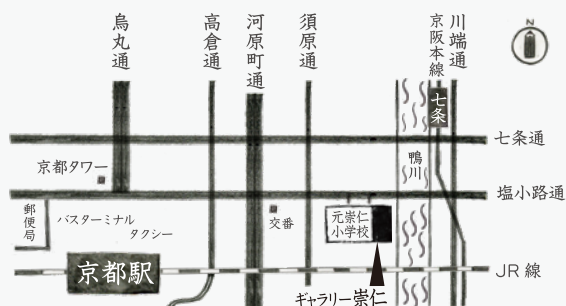
松浦 茜『荒涼とした地に、朧々と線をひく。』

http://www.kcuu.ac.jp/event/20190309_matsuura/

小学校の職員室であった空間が
本学学生の設計・デザインにより
ギャラリーに生まれ変わりました。



京都市立芸術大学では移転整備ブレ事業として、この新たな展示空間「ギャラリー崇仁」において若手作家を支援するためのプロジェクト「教室のフィロソフィー」を実施しています。このプロジェクトでは、本学を卒業、あるいは大学院を修了した若手作家を、小学校解体までの2年間、連続して紹介していきます。絵画・彫刻・デザイン・工芸等様々な専攻で学び、新たな表現を生み出そうと苦闘している作家たちが生み出した作品群からは、現代の新しいアートの息吹を感じていただけることと思います。



ギャラリー 崇仁 元崇仁小学校内 京都市下京区川端町16

JR 京都駅中央口より徒歩 9 分

地下鉄烏丸線京都駅ポルタ A3 出口より徒歩 7 分

京阪七条駅 1 番出口より徒歩 6 分

※お車でのご来場はご遠慮ください。

